

# 「憲法九条を守るわかやま県民の会」ニュース

発行「憲法九条を守るわかやま県民の会」事務局

県地評 Tel 073-436-3520 Fax 073-436-3554 E-mail w-chihyo@naxnet.or.jp

## We Love 「五月の風に」 伊波洋一氏が講演



「憲法九条を守るわかやま県民の会」は五月二一日、午後、和歌山市プラザホールで「五月の風に We Love 憲法 五・二一県民の集い」を開催し、二五〇人を超える人が参加しました。オープニングでは「うたごえ九条の会」が、「憲法九条五月晴れ」、「五月の風に」とともに、美浜町出身で特攻隊員として亡くなった若者と少女をモデルにした「16歳の旅」を披露しました。会場の後ろには、沖縄戦や普天間基地、沖縄修学旅行での高校生が見た沖縄などの写真がパネルに展示されました。前宜野湾市長の伊波洋一氏が「沖縄県民の願い・憲

法九条を持つ国として」と題して講演し、まず沖縄の米軍基地の成り立ちについて説明し、米軍が、国際法に違反して銃剣とブルドーザーで住民の土地を強制的に接収したものであるとの歴史を振り返りました。また、プロジェクトで普天間基地の情景を写しながら、米国の基地使用基準によっても普天間基地を取り囲む住宅地域は墜落危険地帯にあり、2004年8月のヘリ墜落事故のような大惨事が常に起こりうる状況にあり、このままの危険放

置は許されないと訴えまし。さらに、沖縄の海兵隊は1年の内、半分は外国へ出かけ、沖縄の米軍は決して日本の安全のためにあるのではなく、アメリカの世界戦略の中で動いていることが明らかにしました。最後に、伊波氏は、沖縄と日本全土の非軍事化こそ、日本とアジアの軍事的な緊張緩和につながり憲法

和歌山弁護士会の弁護士がマイクを握り、「日本を戦争をする国にしないように9条を守りましょう」と力強く訴えました。駅前で元気の良い和太鼓の音を響かせていた紀北農芸高校の高校生ら多数の若者が署名に応じてくれました。曇り空で、あまり暑くなくよいコンディションの中での1時間あまりの行動で、二一七筆の署名が集まりました。

この後、和商連、医労連、農民連から、国民の要求を削る比例定数削減反対の運動を強めるとの決意表明がなされ、最後に、「衆議院の比例定数削減に反対するアピール」を採択して終了しました。

## 五月三日憲法記念日 九条署名共同行動

### 九条署名共同行動

五月三日憲法記念日の午前十一時より、JR和歌山駅前で「憲法九条を守る和歌山弁護士会の会」の呼びかけで「憲法九条を守るわかやま県民の会」、「九条の会・わかやま」、「九条ネット・わかやま」や各9条の会など三六人が署名、宣伝行動のために集まりました。

各団体が持ち寄った「9条守り平和でいこう」などの、のぼりを掲げながら参加者はチラシを配り、道行く人に署名を訴えました。「県民の会」からの参加者は、5月21日の憲法集会のチラシを挟み込んだテキストシユ(憲法改悪反対共同センター作製)を配布しました。「憲法九条を守る

五月一六日(月)和歌山市のプラザホールで自由法曹団、憲法会議、県地評の主権で比例定数削減決起集会が開催され四四人が参加しました。「比例定数削減・

議員定数削減の危険性」と題して講演した大阪憲法会議副幹事長の西 晃弁護士は、比例定数削減の直接の狙いが、常時、衆議院で3分の2の再議決を可能にし、最終の狙いは、少数意見を国会から完全に排除し、権力の専横を可能にするためである。それによって財界は、新自由主義の完成と、憲法改悪のめくろみを達成しようとしている。たたかひの視点について、無駄論・「国会議員自ら身を削るべし」の欺瞞を明らかにすることの大切さを強調しました。



9条を実現する道である事を強調しました。

